

(2) 本研究の視点

本研究では、本研究の「(1)特別活動と道德教育の関連」を受けて、次の2点を研究の視点として研究を進めました。

- ア 振り返りの場や機会の充実
- イ 目標や活動に含まれる道德的価値の意識化

ア 振り返りの場や機会の充実

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では、課題として、以下のように示されました。⁽¹⁾

①育成を目指す資質・能力の視点

特別活動においては、「なすことによって学ぶ」ということが重視され、各学校で特色ある取組が進められている一方で、各活動において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態もある。

中央教育審議会 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』 平成28年8月 p.308より引用

上記の内容から、身に付けるべき資質・能力は何かを明らかにして学習過程を考える必要性が示されたと考えます。そして、「特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点」として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」が特別活動の目標の中に示されました。また、「特別活動において育成を目指す資質・能力の整理」として示されたのが次の表1です。⁽²⁾

表1 特別活動において育成を目指す資質・能力の整理

知識・理解	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。 ○様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。

中央教育審議会 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』 平成28年8月 p.308より引用

表1で示す特別活動で目指す資質・能力を育成するためには、児童がねらいを意識した上で実践し、実践後に自己の成長に気付くことができるように、意図的・計画的に指導を図ることが必要だと考えます。また、道德教育との関連として、児童が、ねらいや活動に含まれる道德的価値を自覚できるようにするための仕掛けが必要であり、そのために、振り返りを充実させたいと考えます。具体的には、特別活動の集団活動や体験活動について、感じたことや気付いたことを自分の言葉で表現することで、体験によって得た道德的価値の自覚を促すことができると考えます。また、振り返りを行う際、自他の言動のよさを認め合う活動を行うことで、道德的価値の自覚が深まるとともに、自己有用感や自己肯定感が高まり、自分たちのよりよい生活のために、自己を生かそうとするようになると考えます。

また、『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』には、「多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善するための視点」として6つ示されています。その中の3項目目と5項目目が次の通りです。⁽³⁾

(「第3章特別の教科道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2)

(3) 児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これらの課題や目標を見付けたりすることができるように工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、児童が自ら考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。

(5) 児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』 平成27年3月 p.87、p.91より引用

※下線は引用者による

上記のとおり、道徳科には、特別活動等における多様な実践活動や体験活動を道徳科の授業に生かすことが、指導計画の作成をする上で求められています。また、道徳科の授業においても、自らを振り返って成長を実感したり、課題や目標を見付けたりすることができるような工夫が求められています。

そこで、道徳科においては、特別活動での体験活動や実践活動を振り返って、自分の成長を実感したり課題や目標を見付けたりできるように、手立てを探りたいと考えました。

イ 目標や活動に含まれる道徳的価値の意識化

上記の『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』に示された「多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善するための視点」の5項目目の説明として、下記のように示されています。⁽⁴⁾

(3) 特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫

〔前略〕例えば、ある体験活動の中で考えたことや感じたことを道徳科の話し合いに生かすことで、児童の関心を高め、道徳的実践を主体的に行う意欲と態度を育む方法などが考えられる。特に特別活動において、道徳的価値を意図した実践活動や体験活動が計画的に行われている場合は、そこでの児童の体験を基に道徳科において考えを深めることが有効である。

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』 平成27年3月 p.92より引用

※下線は引用者による

「特別活動において、道徳的価値を意図した実践活動や体験活動が計画的に行われている場合は、児童の体験を基に道徳科において考えを深めることが有効である」ということは、実践活動や体験活動で育てることができる道徳的価値と道徳科で取り上げたい道徳的価値を明らかにした上で、そのことを意識して計画的に実践活動や体験活動を行う必要があると考えます。また、児童の自主的、実践的な活動を特質とする特別活動であるため、児童がねらいや活動に含まれる道徳的価値を意識できるようにして、道徳教育としても効果的な実践活動や体験活動となるようにねらっていきたいと考えました。

引用文献

- (1)(2) 中央教育審議会 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議まとめ』平成28年8月 p.308
 (3) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』平成27年3月 p.87、p.91
 (4) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』平成27年3月 p.92